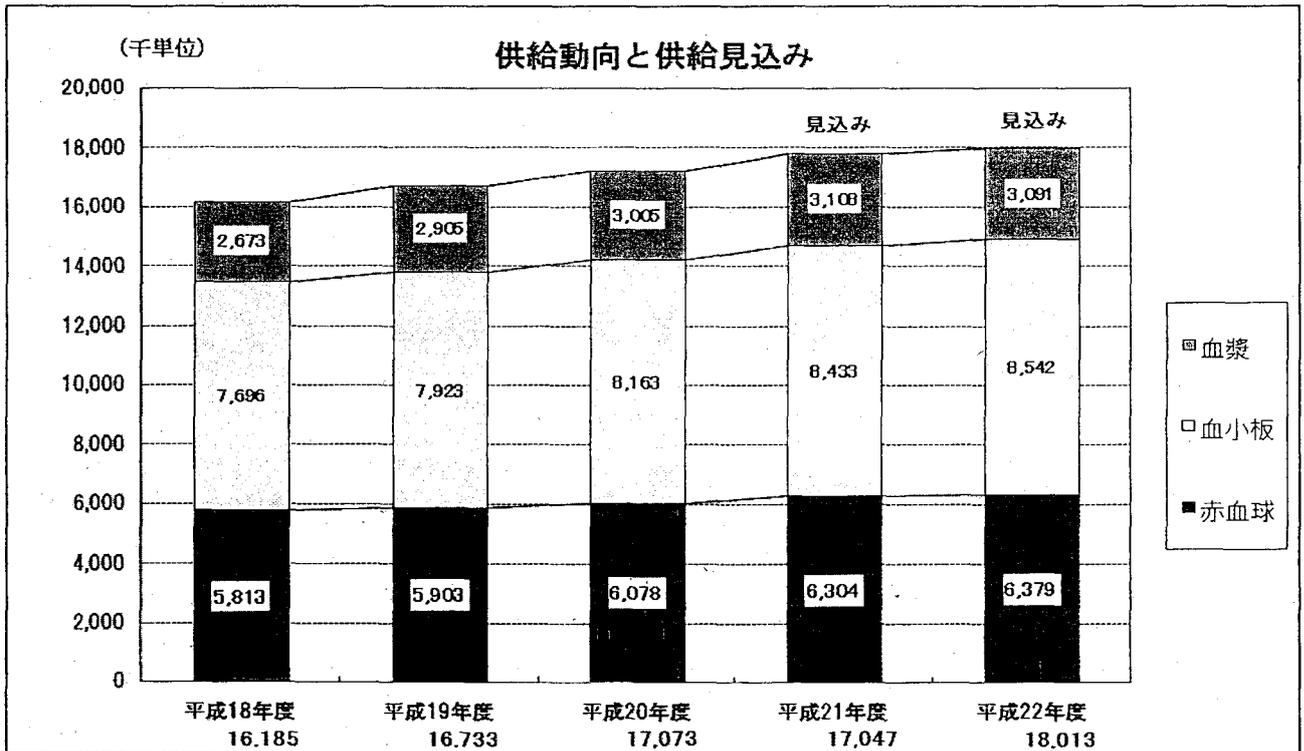
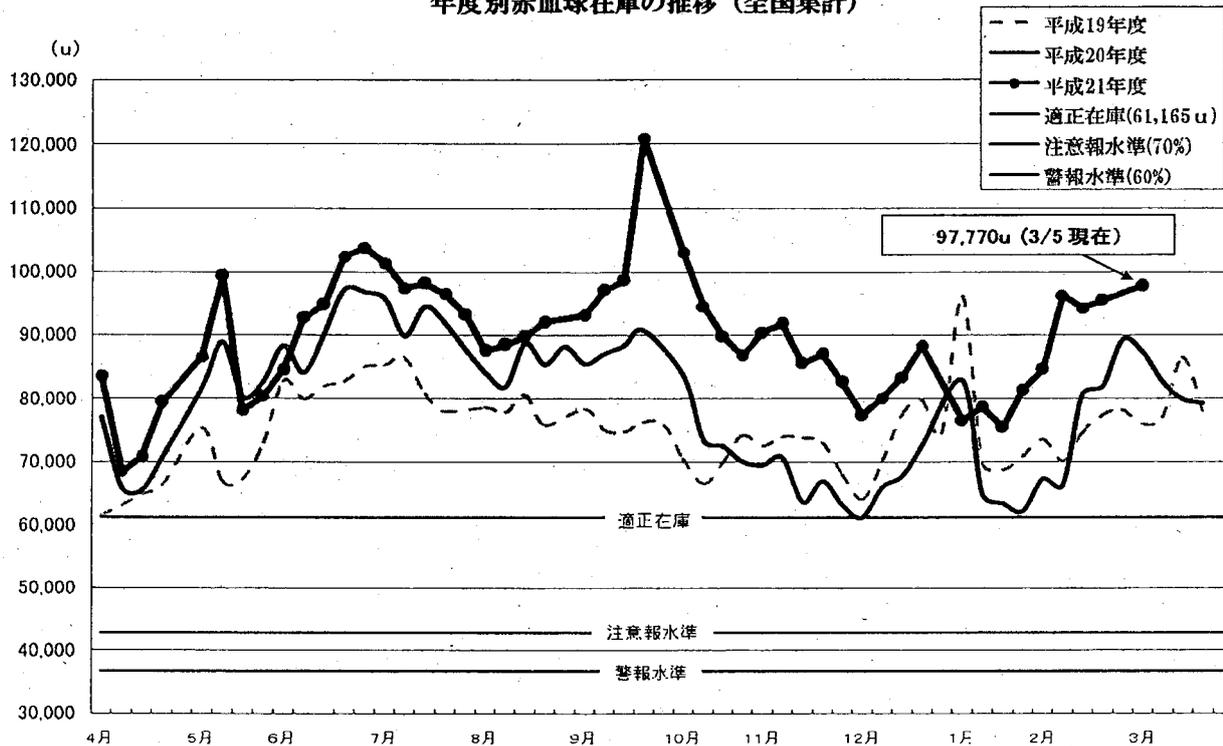


全国の赤血球の在庫状況(平成21年度)

金 ブロック名	RCCLR+照射RCCLR(換算数)					過不足率	上段:RCCLR1 中段:RCCLR2 下段:RCCLR(換算数)					上段:IR-RCCLR1 中段:IR-RCCLR2 下段:照射RCCLR(換算数)				
	上段:適正在庫 中段:実在庫 下段:過不足数・対過不足率						A	O	B	AB	計	A	O	B	AB	計
	A	O	B	AB	計		A	O	B	AB	計	A	O	B	AB	計
北海道ブロック	1,570	1,370	1,010	550	4,500	19	26	6	8	59	200	188	97	61	546	
4,500	1683	1452	1389	829	5353	93	111	79	54	337	639	508	564	2,637		
宮城ブロック	1,710	1,530	1,040	500	4,780	1	2	4	2	9	240	250	167	98	755	
4,780	2017	2190	1261	750	6218	28	13	10	2	53	860	956	535	323	2,674	
東京ブロック	6,890	5,770	4,010	2,140	18,810	207	200	146	103	656	831	588	478	257	2,154	
18,810	12796	8524	6346	3614	31280	1,903	1,288	925	526	4,642	3,976	2,580	1,936	1,101	9,993	
愛知ブロック	3,490	2,692	1,955	918	9,055	24	24	17	15	80	400	224	244	101	969	
9,055	6386	4172	3335	1378	15271	494	445	249	117	1,305	2,487	1,517	1,288	514	5,806	
大阪ブロック	4,160	3,275	2,245	1,200	10,880	27	26	30	15	98	236	176	156	90	658	
10,880	6407	4898	4190	2301	17796	394	335	218	224	1,171	2,678	2,013	1,784	874	7,349	
岡山ブロック	2,299	1,720	1,220	661	5,900	2	3	2	3	10	137	117	132	78	464	
5,900	3941	2710	2344	1097	10092	126	91	58	36	311	1,775	1,204	1,047	472	4,498	
福岡ブロック	2,877	2,162	1,440	761	7,240	4	5	5	1	15	58	61	37	19	175	
7,240	3622	2834	3614	1690	11760	120	138	115	66	439	1,660	1,246	1,671	769	5,346	
合計	22,996	18,519	12,920	6,730	61,165	284	286	210	147	927	2,102	1,604	1,311	704	5,721	
61,165	36852	26780	22479	11659	97770	3,158	2,421	1,654	1,025	8,258	14,075	10,024	8,825	4,379	37,303	



年度別赤血球在庫の推移 (全国集計)



-24-

別紙5

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

北海道赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	ティーンズドナー献血キャンペーン	全道の中中学生から20代の若年層	協力者数 2,000名以上
2	サタデー・テールリング	小学生、特に高学年に献血の重要性を啓蒙する	時期 4月～9月まで 参加者 2,500名以上
3	サマー献血キャンペーン	10～20代を中心とした若者	全道 800名 以上
4	施設見学や総合的な学習等の受入	学年(小・中・高・短大・大学) 幅広く啓発を図る	参加者 300名 以上
5	血小板成分献血協力団体への研修会	大学サークルを主として団体献血(複数人数献血者)の継続的な協力体制を講義する	協力者数 3,000名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血事業所の開拓・確保	献血実施していない事業所や献血会場周辺企業等の啓蒙活動	現在、事業所が減少している状況ではあるが目標 10～15社
2	待機型企業・団体の確保	規模縮小の為、献血協力ができなくなった企業・団体。駐車スペース、他の状況で献血できない事業所。年一回実施事業所への要請。	動員協力団体 100社
3	事業所・団体等の研修会実施	献血の重要性と400mL・成分献血の啓発、強化	道内各センター 100社
4	成分献血協力団体・企業の啓発	待機型企業・団体および少人数の企業・団体	現状 30社 目標 40社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	ハガキ・電話要請の強化	前回採血から期間が開いている献血者	400mL・血小板成分献血者 応諾者数(実協力者数) 3,000名以上
2	複数回献血クラブの運営	複数回献血者会員へメールによる啓蒙	年度会員 3,000名
3	献血処遇品の変更	献血者のニーズに合わせた処遇・一年間で2回の品物変更	新たに1,500名以上の複数回献血者を確保
4	献血フォーラムの実施	複数回献血者会員への啓蒙	参加動員 250名

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	成分献血(血小板)推進キャンペーンの実施	複数回献血者・団体・学生等へ全道統一した期間限定キャンペーンを実施	短期間での実施予定 目標等については、血小板および血漿製剤の需要にて判断
2	「また来て献血」カード配布	全血ルームにて独自の複数回献血者確保を目的に展開	参加協力数 延べ8,000名

-25-

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

青森県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	はがき・メールによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	献血者数17,000人以上
2	セミナー開催	短大・大学生	6回開催 参加100人以上
3	成人式会場においてチラシを配布し、新規及び若年層の確保	新成人	会場においてチラシの配布1,500枚
4	学校献血において学生ボランティアの呼びかけ	大学生	1,300人以上の献血者確保

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血事業所・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	20社目標
2	休眠協力事業所の確保	過去の献血実施事業所の掘り起こし	10社目標

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾数(実協力者)1,100人以上
2	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾数(実協力者)3,000人以上
3	チラシによる複数回クラブ会員募集	ルーム・バスにきた方	会員総数4,600人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	八戸献血ルームのフルオープン	成分献血者	800人以上の成分献血者増員(50日×16人)
2	平日の成分献血者確保(成分献血デーの実施)	成分献血者	平日の成分献血者を1ルーム、1人/日以上を確保し、3ルームで1,000人アップを目標

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

岩手県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	高校生への普及啓発	高校生(主に高校3年生)	協力者数2,900人以上
2	大学・専門学校での献血実施	短大・大学・専門学校	協力者数4,200人以上
3	親と子の血液センター見学会	小学生と保護者	参加者数350人以上
4	セミナー開催	高校生・短大生・大学生・専門学校生	2回以上開催、参加者数200人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血会場周辺企業	35社新規企業開拓
2	年2回以上の協力依頼	年1回の献血団体	10会場

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人以上
2	はがきによる献血依頼	前回・前々回の採血場所で協力いただいた	応諾者数(実協力者数)4,000人以上
3	封書による献血依頼	全血・成分献血登録者	応諾者数(実協力者数)2,500人以上
4	メールによる情報配信	複数回献血クラブ会員	複数回献血クラブ会員1,700人以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

宮城県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血のお礼状送付	16～29歳の献血初回者	献血再来者数200人以上
2	はがきによる400mL献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	献血再来者数150人以上
3	献血実績の高い大学、専門学校への配車を増やす	大学生、専門学校生	2回開催 延献血者数100人
4	新規献血者紹介強化(4～6月)	大学生、専門学校延べ25校	25回開催 献血者数250人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血実施会場周辺の企業・団体	100社新規登録
2	献血ルームで協力可能な近隣企業の確保	献血ルーム近隣企業	30社新規登録

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	献血応諾率10%以上
2	はがきによる献血要請	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)7,000人以上
3	封書による複数回会員登録依頼	献血依頼対象者	会員登録者数 8,000人以上
4	献血会場での複数回献血クラブ会員登録強化	全献血者	会員登録者数 8,000人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	休日の街頭献血を増やす	宮城県全体の献血者	配車割合33.5%
2	休日に実施可能な事業所の開拓	県内各企業	3事業所
3	はがきによる会員登録の案内	献血依頼対象者	総会員登録者数 8,000人以上
4	メールによる成分献血予約の案内	複数回献血クラブ会員	成分献血予約 1,200人以上

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

秋田県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	献血講話	高校や大学	5校
	はがきによる献血依頼	16才から29才を対象に400献血成分献血の依頼	2万枚
	キャンペーンの実施	16才から29才を対象のキャンペーン	6回

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	新規献血協力施設企業・団体の確保	献血未実施企業	新規企業団体36社
	成分献血協力団体の確保	既献血企業に対し協力依頼	

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	はがきでの献血依頼	年間一回の献血協力者に対し依頼	
	オリジナルパンフレットの作成	情報誌「ピエノ」の作成	1万5千部
	メールによる献血依頼		

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	献血ルームの午前中の献血者の確保	キャンペーンを実施	午前中15人の確保

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

山形県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	出前講座の実施	小・中・高・大・各高校生	12回
2	高校献血の実施	県内の高校生	50校
3	施設見学	小学生・高校生	各1回(宮城センター見学)
4	東北ブロック学生キャンペーン実施	若年層一般	3回

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	広報紙(市・町報紙)での新規協力団体募集	小規模(100人以下)の事業所	新規団体5団体
2	ライオンズクラブ内会員の新規事業所勧誘	小規模(100人以下)の事業所	新規団体5団体
3	訪問による新規団体勧誘	献血未実施事業所	新規団体5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	献血ポイント制の実施	400・成分献血者	複数回達成者30%
2	複数回献血啓発チラシの作成	400・成分献血者	対象献血者全員配布

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	行政窓口担当者の研修	市町村担当者	全管内実施
2	渉外活動の強化	献血実施団体及び近隣事業所	全献血実施場所
3	街頭・住民献血への葉書依頼	400献血対象者	18000通/年
4	街頭・住民献血へのメール依頼	400献血対象者	18000通/年

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

福島県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	青少年献血ふれあい事業開催	小、中、高校生	年3回以上実施100人以上
2	若年者献血セミナー開催	高校、大学、専門学校生	5回開催参加者300以上
3	学生ボランティアと連携したイベント献血の実施(サマー献血、クリスマス献血等)	高校、大学、専門学校生	8月・12月に実施、1稼働50人以上
4	大学献血への増車	大学生	毎月1回の配車、1稼働50人以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業の確保	献血協力事業所の見直しを効率化を図る	20社以上
2	休眠献血団体・企業への働きかけ	現在休眠献血事業所の過去における実績を検討し、今後の献血協力を依頼する	50社以上
3	優良企業・団体の年複数回の献血実施	優良事業所の献血実施時期を検討し、年間における運行回数を見直しを図る	20社以上
4	優良企業・団体への配車台数の増車	優良事業所の献血実績を検討し、献血実施時における運行台数の見直しを図る	5社以上

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる協力要請	複数回献血クラブ会員	応諾数1000人以上
2	ハガキ・電話による要請	前回400mL献血経験者	応諾数1000人以上
3	会員募集用リーフレットの作成	400mL献血者と成分献血者	60000枚配布予定

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	登録成分要請ダイレクトMの発送	成分献血未経験者で可能者	固定施設で500人確保する
2	複数回成分献血者の確保(成分献血キャンペーン等の実施)	新規を含む成分献血者	固定施設で年間500人を定期化を依頼する
3	原料血漿確保のための成分献血確保	55歳以上の成分献血経験者	固定施設で200以上とする
4	ルームの献血者確保(ルーム限定イベント等を実施)	新規を含む献血者	1日平均50名を確保

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

茨城県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	セミナー等の開催	高校・短大・大学生	3回～5回実施
2	若年層キャンペーンの実施	高校・短大・大学生	2回～3回実施 参加者500名 献血者150名
3	夏休み親子教室の実施	小学生	3回～5回実施

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	新規事業所の開拓	1回/30名以上の協力を得られる新規事業所	10社～20社
2	休眠状態の事業所の開拓	実施しなくなった事業所の見直し	10社～20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブの登録者	応諾者数 5,000名
2	ハガキによる献血依頼	献血可能者	応諾率 20%
3	企業及び団体の年間実施回数増加	年1回～2回実施の事業所及び団体	5～10ヶ所

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	次回の予約推進	各献血ルームの献血者	予約者 1,000名を確保する。
2	電話及びハガキによる献血依頼の実施	成分献血者	応諾者数 1,500名を確保する。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

栃木県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	高等学校献血の実施	16～18歳の高校生	協力者8,000人以上
2	大学・短大・専門学校等献血の実施	18～22歳の学生	協力者8,000人以上
3	青少年等献血ふれあい事業・若年者献血セミナーの開催	小中高生から30代未満の若年者	

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施および採血会場周辺企業	10社
2	休眠団体への働きかけ	事業規模縮小等により献血実施できなかった企業・団体	20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)500人
2	はがきによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)500人

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	ハガキ・メールによる献血依頼	400ml献血可能者	上記③複数回献血者確保対策に含む。
2	400ml献血推進キャンペーン	400ml献血可能者	全血400ml献血比率76.0%
3	高等学校献血における400ml推進	400ml献血可能者	高等学校献血時の400ml献血率今年度比3%増

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

群馬県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	夏休み親子体験教室	小学生・中学生	50名
2	サッカーJ2ザスバ草津・三洋電機フイールド ナイツと連携し献血PR活動の実施	献血可能者	500名以上
3	献血セミナーの開催	専門学校・短大・大学生・小・中学生	2回開催 参加者1000人
4	学生献血ボランティアによるイベントの実施 (クリスマス献血・サマー献血等)	18歳から29歳の若者	500名以上

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血団体の確保	献血未実施および献血会場周辺企業	目標50社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	はがきによる献血依頼	前回採血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)12000人以上
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数(実協力者数)2000人以上
3	リラクゼーションの実施(健康相談)	メール会員	2月22日～3月19日の平日で実施(平均50人以上)

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

埼玉県赤十字血液センター

①若年層献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	献血出前講座	小学生、中学生、高校生、その他学生	参加者3,000人
2	親子ふれあい献血キャンペーン	幼児、児童と父親、母親	子供達の参加400人
3	献血フォーラム	若年層	参加者500人
4	入学おめでとう献血啓発カード	新高校1年生	高校1年生67,000人
5	卒業献血キャンペーン	高校3年生	参加者500人
6	クリスマス献血キャンペーン	若年層	3会場で500名の献血協力
7	県・市町村・血液センター3者による高校訪問	献血未実施高校	高校生献血14,000人

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	県・市町村・血液センター3者による新規献血協力団体の開拓	献血未実施企業及び団体	50団体
2	献血ルームへの献血協力団体の開拓	献血ルーム周辺の企業および団体(移動採血車やオープン採血ができない企業等)	5団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	会員数30,000人
2	ハガキによる献血依頼	献血要請依頼可能者(前回採血から一定期間未献血者)	応諾者20,000人以上
3	県・市町村・血液センター3者の企業訪問	年1回実施の企業および団体	10団体

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対 象	平成22年度目標(数値)
1	400mL献血者増加のための推進用資材の作成	400mL献血可能者に配布	①400mL献血の基準を満たしている方の98%以上から400mL献血をいただく。 ②400mL献血比率を80%とする。
2	葉書等にて60歳～64歳の間に献血未実施の方に、400mL献血協力を依頼し、69歳までの献血再来推進	60歳から64歳の間に協力がいない方	1000名の400mL献血者増

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

千葉県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
	セミナー開催	高等学校	3回開催 参加2,000人
	小学生を対象とした献血啓発イベント等開催	小学生等(保護者を含む)	年1回開催

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血協力企業・団体の確保	献血未実施及び献血協力企業、会場周辺企業など	新規協力企業・団体の確保により238社新規登録
2	臨時献血要請可能な企業の確保	通常献血に加え臨時に献血依頼可能な企業	献血要請可能な企業等20社

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	メールによる献血要請	複数回献血クラブ会員	応諾者数 延べ 900人
2	はがきによる献血依頼	前回献血から一定期間未献血者	応諾者数 延べ 25,000人
3	メールによる情報配信	複数回献血クラブ会員	年6回以上
4	新規複数回献血クラブ会員募集 キャンペーン	献血者	新規会員数 2,000人

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	電話による献血依頼	成分献血者(緊急時を中心に)	1ヶ月平均120人を目標に年間1,400人を確保する。

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

東京都 赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	ラクロス献血協力者に対する複数回依頼	短大・大学生	700人対象
2	大学・短大献血の増回・増班	大学・短期大学生	大学献血の稼働日数を延べ15日増加
3	新採血基準を見据えた高校献血の実施	高校	献血団体として5団体増加
4	グループ献血、ペア献血	16歳以上の学生	約25,000人
5	はがきによる献血依頼	18～29歳の400mL献血可能者	協力者数20,000人以上
6	環境整備及びイベントの実施	16～29歳の献血者	環境整備後の固定施設を中心とし、各施設等において協力対象者を3%増加

②献血協賛企業推進対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	新規献血団体の確保(ライオンズクラブとの連携等)	献血未実施団体	50団体
2	新規協力企業の確保	献血会場周辺の新規協力企業	50団体
3	掘起し・増回企業・団体の確保(ライオンズクラブとの連携等)	献血中断・年1回実施の企業・団体	50団体

③複数回献血者確保対策

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	400ml献血サポーター募集	原則通年・400ml献血した献血者の再来を勧奨する。	400ml採血者の60%を目標
2	メールによる献血要請	複数回献血クラブ(携帯メールクラブ)会員	応諾者数(実協力者数)40,000人以上
3	はがきによる献血依頼(全血・成分)	前回献血ルームでの献血から一定期間未献血者	応諾者数(実協力者数)30,000人以上
4	はがきによる献血依頼(渉外支援)	前回同移動採血会場に来所した献血者への依頼	応諾者数(実協力者数)42,000人以上

④その他の具体的対策(①～③以外の独自の対策を記入。以下必要に応じ様式を追加)

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	成分献血予約推進	成分献血者	成分献血の35%以上を予約で確保する。(約65,000人) 成分献血予約のうちメール予約で45%、約30,000人確保を目標とする

平成22年度献血により受入れる血液の目標量を確保するために必要と思われる具体的措置

①若年層献血者確保対策

神奈川県赤十字血液センター

No.	具体的対策(項目名)	対象	平成22年度目標(数値)
1	17才からの400mL献血キャンペーン	県内高等学校の17才以上の男子生徒を中心に高校献血を実施する。	17才からの400mL献血の実施について国会承認が降り次第、17才の400mL献血推進キャンペーンを実施することで、若年層の献血協力率が向上する
2	中・高生の献血協力率の向上を図るため、血液センターの事業や業務について職場体験をする。	県を通じ、県下の中学校及び高等学校に募集を呼びかけ実施する。	原則として、中高生が参加しやすい夏休み期間に1日10組で平日に10回実施する
3	当センターではJリーグ横浜Fマリノスの支援をいただき、ホームタウンの横浜市内で行われる献血会場に赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置し、球団旗で装飾をしたり、献血協力者には選手のサイン色紙や各種グッズを記念品として提供いただく等、球団と共同してPR活動を実施する。	県民はもとより、横浜F・マリノスのファンやサポーターの中でも特に若年層を対象とする。	横浜F・マリノスのエンブレムで装飾した天幕を、マリノスのホームタウンである横浜市内の街頭献血会場に設置することにより、若年献血者の確保をはかる。
4	横浜駅東口献血ルームでは、Jリーグ横浜Fマリノスに支援をいただき、ルーム内に選手のサイン入りユニホームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのステッカー等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	横浜F・マリノスのチームカラーで装飾し、若年層のサポーターやファンの献血者の確保をはかる。
5	Jリーグ横浜F・マリノスの公式戦やファン感謝デー等に移動採血車を配車し、球団エンブレムを配した天幕を球団旗等装飾するほか、マリノスのマスコットキャラクターとけんけつちゃんによる広報応援を行い、ファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	横浜F・マリノスのホームでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。(平成21年度実績1回)
6	当センターではJリーグ川崎フロンターレに支援をいただき、ホームタウンの川崎市内で行われる献血会場に赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置し、球団旗で装飾をしたり、献血協力者には選手のプロマイド等各種グッズを記念品として提供いただく等、球団と共同してPR活動を実施する。	県民はもとより、川崎フロンターレのファンやサポーターの中でも特に若年層を対象とする。	川崎フロンターレのエンブレムで装飾した天幕をフロンターレのホームタウンである川崎市内の献血会場に設置することにより、若年献血者の確保をはかる。

7	かわさき献血ルームでは、Jリーグ川崎フロンターレに支援をいただき、ルーム内に選手のサイン入りユニホームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのステッカー等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	川崎フロンターレのチームカラーで装飾し、若年層のサポーターやファンの献血者の確保をはかる。
8	Jリーグ川崎フロンターレの公式戦やファン感謝デー等に移動採血車を配車し、球団エンブレムを配した天幕を球団旗等で装飾するほか、フロンターレのマスコットキャラクターとけんけつちゃんによる広報応援を行い、ファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	川崎フロンターレのホームでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。
9	当センターではJリーグ湘南ベルマーレに支援をいただき、ホームタウンの平塚市を中心に湘南地区で行われる献血会場に赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置し、球団旗で装飾をしたり、献血協力者には選手のサイン色紙や各種グッズを記念品として提供いただく等、球団と共同してPR活動を実施する。	県民はもとより、湘南ベルマーレのファンやサポーターの中でも特に若年層を対象とする。	湘南ベルマーレのエンブレムで装飾した天幕をベルマーレのホームタウンである湘南地域の献血会場に設置することにより、若年献血者の確保をはかる。
10	藤沢献血ルームでは、Jリーグ湘南ベルマーレの支援をいただき、ルーム内に選手のサイン入りユニホームを展示したり、ルームの入口やルーム内をマスコットキャラクターのステッカー等で装飾することにより、ファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	湘南ベルマーレのチームカラーで装飾し、若年層のサポーターやファンの献血者の確保をはかる。
11	Jリーグ湘南ベルマーレの公式戦やファン感謝デー等に移動採血車を配車し、球団エンブレムを配した天幕を球団旗等で装飾するほか、ベルマーレのマスコットキャラクターとけんけつちゃんによる広報応援を行い、ファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	湘南ベルマーレのホームでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。

12	当センターではプロ野球横浜ベイスターズに支援をいただき、ホームタウンの横浜関内駅周辺や桜木町駅周辺で行われる献血会場に赤十字と球団のエンブレムを配した天幕を設置し、球団旗で装飾をしたり、献血協力者には選手のサイン色紙や公式試合球等のグッズを記念品として提供いただく等、球団と共同してPR活動を実施する。	県民はもとより、横浜ベイスターズのファンやサポーターの中でも特に若年層を対象とする。	横浜ベイスターズのエンブレムで装飾した天幕を、ホームタウンである横浜関内駅周辺の献血会場に設置することにより、若年層の献血者の確保をはかる。(平成21年度配車実績16回)
13	横浜駅西口献血ルームでは、横浜ベイスターズに支援をいただき、ルーム内に選手のサイン入りユニホームやワールドベースボールクラシックに日本代表として参加した村田選手や内川選手のサイン入り代表ユニホームを展示したり、ルームの入口には村田、内川両選手の等身大ポスターやマスコットキャラクターのステッカー等で装飾しファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	横浜ベイスターズのチームカラーで装飾し、若年層のサポーターやファンの献血者の確保をはかる。
14	プロ野球横浜ベイスターズの公式戦やファン感謝デー等に移動採血車を配車し、球団エンブレムを配した天幕を球団旗等で装飾するほか、献血協力者には選手のサイン色紙や公式試合球等ベイスターズグッズを記念品として提供いただき配布する。また、ベイスターズのマスコットキャラクターやチャガール「ディアーナ」とけんけつちゃんによる広報応援を行い、ファンやサポーターの献血への協力を募る。	同上	ホームでの試合開催や、ファン感謝デー等のイベント開催時に配車。(平成21年度配車実績1回、2台、400mL献血者132名)
15	将来の献血協力者である小学生と保護者の方々に血液についての知識や献血について理解を深めるための「小学生夏休み親子献血教室」を開催する。	県を通じ、県下の小学校に募集を呼びかけるほか、PTA献血の際に保護者に参加を呼び掛ける。	夏休み期間1回10名で40回400名(平成21年度参加実績32回216名)
16	「献血の絵ポスター展」を開催するため、県下の小・中学校に作品を制作を依頼すると共に、優秀作品を掲載したカレンダーを作成し、作品を出してくれた児童・生徒や街頭や企業で献血に協力いただいた方へ配布する。	ポスター展の作品募集は県を通じて、県下の小学生・中学校に呼び掛ける。	県内の小・中学校200校からの応募。(平成20年度参加実績169校、平成21年度参加実績195校)